

## 第2回 日本視機能看護学会会員情報交換会報告

- テーマ：高齢者への周術期（白内障）の点眼指導についての取り組み  
～自己管理に向けての指導の工夫～
- 日時：2021年2月6日（土） 14：00～15：10
- 方法：ZOOMによる意見交換会
- 参加人数：10名（日本視機能看護学会役員含む）
- アドバイザー：医療法人真生会 真生会富山病院 第2診療支援部薬剤科  
科長 後藤先生



今回は、点眼指導における自己管理に向けての指導の工夫について、各施設より実際使用しているツールを含め、具体的にPPTなどを用いて説明をして頂きました。ほとんどの施設で、点眼の内容を個別に作成できる簡便なツールを作成し活用しておられました。そのツールを用いての実際の点眼指導方法としては、病棟では術後早期より患者さんに点眼管理を実施して頂き、評価していく方法が取り入れられていました。また、アドバイザーの後藤先生からは、入院患者さんの場合は点眼指導のみならず、服薬指導もあわせて行う必要もあり、服薬指導という視点も含め、薬剤師の先生方との連携により、患者理解を深めていく関わりについてのご教授を頂きました。外来での点眼指導については、周術期での患者指導は、点眼指導のみではなく、時間の制約やマンパワーの問題もあり、効率的に行う上での看護目標をどのように考えるかという点について提議をして頂きました。更に、周術期の点眼指導については、点眼治療の期間の短縮化など眼科医療の見直しがある中で、患者指導も変化していく事を考慮しながら検討していく必要がある事など、広い視野で点眼指導についての意見交換会を行うことができました。

点眼指導については、幅広いテーマとなりうるため、今回の第2回では患者さんの自己管理の工夫にポイントを絞って意見交換会を行いました。それでも時間が短かったというご意見も頂きました。

次回の第3回の意見交換会では点眼の手技の工夫というテーマを予定しております。更には、今回は基本的な点眼管理を主としての意見交換会であり、今後は緑内障患者さんのアドヒアランスの向上を目的とした点眼指導についても企画していきたいと考えております。

